

明恵の瞑想の場所

高山寺の開祖明恵(1173~1232 年)は自然を愛したことで知られた。彼は寺院の建物内ではなく、よく屋外で瞑想した。明恵の没後、一部の彼のお気に入りの瞑想場所には石碑が建てられ、現在も見ることができる。

明恵は高山寺から見て山の上に位置する、二股に分かれた松の木とその傍の岩を特に好んだ。彼はその二つを縄床樹(「縄床の樹木」)、定心石(「心穏やかな岩」)と呼んだ。寺院の石水院の堂内に展示されている明恵の有名な肖像画は、野生動物に囲まれて松の木の上で瞑想している明恵の姿が描かれている。石碑は明恵が頻繁に訪れていた簡素な庵、華宮殿の旧地と石水院の旧地にも建てられている。

明恵の屋外での瞑想の場と修行については、約 40 年にわたって綴られた彼の夢記に記されている。学術的関心の対象であるこの記録は明恵の根本思想に多大な影響を与えたとされる。